

愛媛県レッドリストの改訂概要について

1 「絶滅種」→「絶滅危惧種」への変更（3種）

○ニホンカモシカ 哺乳類（ウシ科）

絶滅種→絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

○ハマスズ 昆虫類（ヒバリモドキ科）

絶滅種→絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

○コナミキ 高等植物（シソ科）

絶滅種→絶滅危惧ⅠA類（CR）



（ニホンカモシカ）



（ハマスズ）



（コナミキ）

2 上記以外のカテゴリー区分の変更（26種）

【昆虫類：7種】

キイロコガシラミズムシ(VU→NT)、ヨツボシカミキリ(VU→CR+EN)、ケシゲンゴロウ(NT→VU)、スジヒラタガムシ(NT→削除)、マルクビツチハンミョウ(NT→VU)、トラフカミキリ(NT→VU)、モモイロフサクビヨトウ(DD→削除)

【高等植物：19種】

ホナガタツナミソウ(VU→削除)、ヒメコケシノブ(DD→EN)、ハガクレカナワラビ(DD→CR)、ニセコクモウクジャク(DD→EN)、アツギノスカイタチシダマガイ(DD→CR)、ツクシヤワラシダ(DD→EN)、モミジカラマツ(DD→EN)、コダイコンソウ(DD→削除)、イヌハギ(DD→EN)、ルリハッカ(DD→削除)、シソバタツナミ(DD→EN)、イガタツナミ(DD→削除)、ヤマホオズキ(DD→CR)、ヤマアザミ(DD→VU)、ホソバニガナ(DD→CR)、ヤマボクチ(DD→CR)、アズマナルコ(DD→CR)、ミヤマフタバラン(DD→CR)、イヨトンボ(DD→CR)

区分		基本概念
E X	絶滅	愛媛県ですでに絶滅したと考えられる種
E W	野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
	CR 絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
	EN 絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
V U	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
N T	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの。
D D	情報不足	評価するだけの情報が不足している種
L P	絶滅の恐れのある地域 個体群	地域的に孤立している個体群で絶滅の恐れが高いもの (今回カテゴリーの設定なし。)
A N	要注意種	現時点で種として絶滅のおそれがあるものではないため上記カテゴリー（CR～NT・DD）には該当しないが、県内の生物多様性の保全の観点から今後の個体数や生息状況の変化に特に注意する必要があると考えられる種。

3 新たにレッドリストに掲載 (24 種)

【淡水魚類：1 種】

シラウオ DD

【哺乳類：1 種】

ヤマコウモリ DD (再掲)

【昆虫類：12 種】

ヨドシロヘリハンミョウ CR+EN、オオヒラタトックリゴミムシ CR+EN、
ヒメマルケシゲンゴロウ CR+EN、ツブゲンゴロウ VU、コカブトムシ NT、
ホソコハナムグリ NT、オオトックリゴミムシ DD、ホソハマベゴミムシダマシ DD、
ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ DD、オオマルスナゴミムシダマシ DD、
ミドリカミキリ DD、フシキキシタバ NT

【高等植物：9 種】

キイムヨウラン CR、クロヤツシロラン EN、シテンクモキリ EN、
ホクリクムヨウラン EN、ヒロハマツナ EN、ハリブキ CR、
シイバサトメシダ CR、タヌキノショクダイ CR、シソバウリクサ CR

【藻類：1 種】

オーストラリアシャジクモ DD

4 学名等変更 (13 種)

【両生類：2 種】

アキサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ

【昆虫類：1 種】

キンキコルリクワガタ

【淡水魚類：9 種】

ニホンイトヨ、ヌマムツ、ナガレホトケドジョウ、アユカケ、ウグイ、
ルリヨシノボリ、オイカワ、チワラスボ、シマヒレヨシノボリ

【高等植物：1 種】

ミズワラビ